

スピーカーアキュライザーの活用(10)
—TANNOY III LZ—

1. 始めに

前報(9)に引き続き、追加購入のスピーカーアキュライザーをサブシステムに使用していきます。

2. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴計画

今回は、サブシステムのうち、TANNOY III LZ に適用してみます。

TANNOY III LZ の設置状況は、サブシステムの再構成(15)とサブシステムの再構成(16)で報告しています。

スピーカーリベラメンテ 5m 長を使用し、スピーカーアキュライザーにバナナプラグで接続し、スピーカーアキュライザーからバナナプラグ経由で TANNOY III LZ に接続します。

音源は、スピーカーアキュライザーの活用(2)からスピーカーアキュライザーの活用(6)で使用した各種音源から一つずつ選択します。

アナログ

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein (Vn)

CD

Hyperion CDA67993

ウジェーヌ・イザイ 無伴奏ヴァイオリンソナタ 1 番～6 番

アリーナ・イブラギモヴァ(ヴァイオリン)

ハイレゾファイル音源

Universal Music UCCG-40074(MQACD)

ドボルザーク 交響曲 8 番・9 番

ラファエル・クーベリック指揮ベルリンフィル

ベルリンフィルデジタルコンサートホール

グスタフ・マーラー 交響曲 3 番

ロレンツォ・ヴィオッティ指揮ベルリンフィル

STAGE+

ベートーヴェン ピアノソナタ 30 番 31 番 32 番

マウリツィオ・ポリーニ (ピアノ)

3. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴結果

駆動アンプは、前報(7)と同様、Pilotone Tungsol 5881pp とします。CDの再生は、前報(7)と同様、下記の経路としています。

EMT981(*)→CRV-555(*)→DAC-1→TruPhase

*GPS-777よりクロック入力

アナログのバッハの **Sonatas & Partitas** は、ミルシュテインのヴァイオリンの滑らかさや艶も十分で、ボウイングの動きもリアルに把握できます。

CDのイザイの無伴奏ヴァイオリンソナタは、イブラギモヴァのダイナミックなボウイングが聴けますし、ともすれば際どい音が出がちなのこの曲が十分に制御されています。

ハイレゾファイル音源(MQACD)のドボルザークの交響曲8番・9番は、弦の滑らかさはメインシステムのFALには及びませんが、抒情的な木管の響きの質感などは十分です。

ベルリンフィルデジタルコンサートホールのマーラーの交響曲3番は、大編成オーケストラのスケール感が出ており、グランカッサの弱打も明瞭で音の緻密さも向上しています。

STAGE+のベートーヴェンのピアノソナタは、中型のブックシェルフとは思えないほどのスケール感で、ポリニーのピアノがヘラクレスザールに鳴り響きます。

4. まとめ

前報(1)の試聴でもスピーカーアキュライザーの導入で様変わりしたことを述べましたが、音源を広げての試聴でスピーカーアキュライザーの効果を確認できました。

以上